



教育支援センター 「ゆっくるも」

特集

市では、学校に行くことができない、家庭に閉じこもりがちな子どもに対して、社会的な自立や学校生活への復帰を支援するため、令和5年6月より教育支援センター「ゆっくるも」を開設しています。

問 市・教育政策課 TEL 42-3006

不登校の定義とは

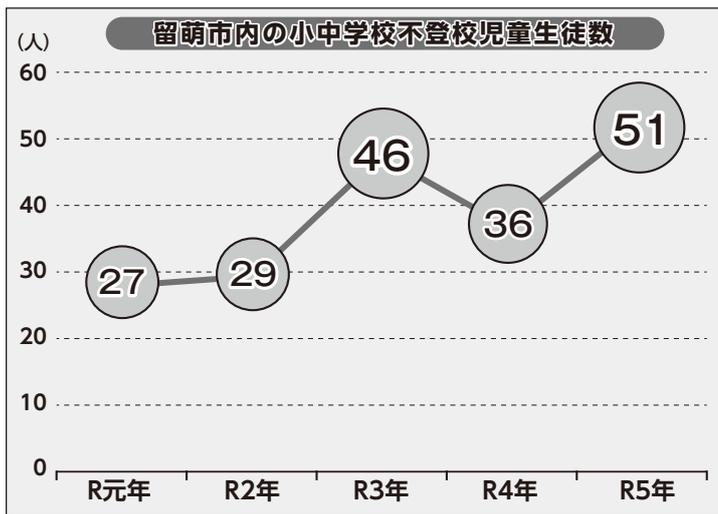
文部科学省は、不登校を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いた者」と定義しています。

不登校の現状と理由

留萌市における不登校の子どもたちは、小中学校合わせて、令和4年度は36名、令和5年度は51名と、年度によってばらつきはありますが、増加傾向にあります。

不登校の子どもたちや保護者へのアンケートでは、「最初に学校に行きづらいと感じたきっかけ」について、「先生のこと」「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「友達のこと」があげられています。

また、ここ数年はコロナ禍による生活環境の変化により、生活リズムが乱れやすい状況であったこと、学校生活において様々な制限の中で交友関係が築けていないなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったと考えられます。



これまでの取り組み

各学校においては、不登校が生じないような学校づくりに努めるとともに、学校・家庭での様子から不登校の予兆に気づき、早期発見、早期対応に努めています。

また、教育支援センター「ゆっくるも」では、学習指導や適応指導、付き添いによる登校支援のほか、体験活動により集団生活への適応を図るなど、学校や関係機関と連携しながら、組織的な対応にあたっています。

令和5年度は、16名の子どもたちが通級しており、「ゆっくるも」での支援を得ながら、6名の子どもたちが別室登校や学校復帰できるようになりました。

今年度の通級児童生徒の現状

令和6年度は、9月末現在で15名の子どもたちが「ゆっくるも」に通級しています。

その中で、毎日又は少しずつ学校に行けるようになった子や指導員付添のもとで別室登校ができるようになった子、また、学校に行くことができなくても、「ゆっくるも」に通級し、勉強や交流を深めている子など様々です。中には、登校や「ゆっくるも」への通級がなかなかできない子もありますが、学校と連携しながら声掛けや家庭訪問を実施するなど、登校や社会的な自立に向けた働きかけを行っています。



支援の内容

● 適応指導 ●

体験活動や交流活動などを通じて、コミュニケーション力や社会性を育みます。
(軽運動、交流活動、物づくり活動など)

● 学習指導 ●

一人一人の学力や適性に応じた学習指導について、指導員がサポートしながら取り組みます。(原則、個別対応)

学校と連携し、一人一人に適した学習支援を行っています。

その他、農業体験や黄金岬海遊びなど、子ども同士の共通体験をすることの楽しさを感じ、社会性・公共心を養うための活動も行っています。

その他にも随時教育相談を受け付けていますので、ひとりで悩まず、子どもの行き渋りや不登校の予兆を感じたときは、すぐにご相談ください。

指導員の紹介

安田 善見 指導員(元 学校長)



学校に行きたくても行けない子どもたちが再登校に向けて少しでも前向きな気持ちもてるよう私たちがお手伝いします。
お気軽にご相談ください。

吉田 千春 指導員(元 教員)



悩んでいる時は、先が見えない暗いトンネルの中にいる苦しい状態ですが、人に話すことで心や頭の中が整理できるものです。
開ける選択肢はたくさんありますから、一緒に見つけチャレンジしていきましょう。

ひとりで悩まず、電話してみませんか？

TEL : 090-9005-5338 (「ゆっくるも」専用携帯電話)

場所 : 留萌市中央公民館 2 F 時間 : 9時~15時 (土日祝日除く)

H P : https://www.e-rumoi.jp/gakkoukyouiku/page28_00083.html



「ゆっくるも」
についてのQR